

上越教育大学研究プロジェクト 終了報告書（特別研究・一般研究）

研究代表者 所属・職名 上越教育大学附属小学校・校長

氏 名 岩崎 浩

研究期間 平成28年度～平成29年度

| | |
|----------------------|--|
| 研究プロジェクトの名称 | 課題に対して、主体的に関わり、他者とともによりよい解決を求めていく力を育み、変化の激しい社会をよりよく生きる子供が育つ教育課程の創造 |
| 研究プロジェクトの概要 | <p>附属小学校では、平成27年度に社会の様々な課題に対して、主体的にかかわり、他者と共によりよい解決を求めていく力を育むために、「創造活動」「実践教科活動」「実践道徳」「集団活動」（「4つの教育活動」）を創設した。本研究では、その教育課程や系統的な指導に関する研究開発を行う。</p> <p>社会の様々な課題に対して、主体的に関わり、他者と共によりよい解決を求めていく力として、分野横断的に物事を考え創造性を発揮して学ぶ力、物事を俯瞰したり焦点化したりしながら主体的に学ぶ力、他者と協力しながら課題に対して最善解を導き探究的に学ぶ力が求められる。これらは、これからの社会を生きていく子供たちに求められる教育活動全体を通して育成したい資質・能力である。こうした力は、子供が感性を働かせながら活動し、その中で学ぶことによって育まれると考える。本研究では、感性を培うことを大切に「創造活動」「実践教科活動」「実践道徳」「集団活動」（「4つの教育活動」）を創設し、「創造活動」を中核にそれぞれの活動の関連を図った教育課程の編成・開発を行う。更に、この2年の研究では「4つの教育活動」の問い直しを図っていく。</p> |
| 研究成果の概要 | <p>「4つの教育活動」の実施によって、子どもの創造力、実践力を高め、これからの社会（21世紀）をつくり、生き抜く子どもを育成する。「創造活動」を中核とすることで、息長く対象とかかわった経験が、無自覚的、潜在的な意識としてその子の中に体系化されていく。それらは、「実践道徳」における深い思考によって顕在化される。このような直接体験と深い思考に支えられて、子どもは、豊かな言語感覚や造形感覚をはたらかせながら、新たな意味や価値をつくり出していたのである。「実践道徳」と「実践教科活動」の関連では、創造活動での「主体性」をベースに、その教科の本質に迫る知識や技能を身に付けながら、「創造性」をはたらかせる様相が多くとらえられた。しかし、表現活動以外の関連や、「協働性」の視点からの関連については、事例の集積が不十分である。4つの教育活動が効果的に往還する教育活動の在り方について今後も実践を重ねていく。</p> |
| 研究成果の発表状況 | <p>6月23日（金）24日（土）に2017年研究会を開催し、これまでの研究成果についての全体発表、授業公開そして研究紀要の発刊を行った。</p> <p>3月9日（金）には文部科学省に対して、研究開発研究の実施報告書を提出した。</p> |
| 学校現場や授業への研究成果の還元について | <p>今後は、研究紀要や機関誌「教育創造」等において、当校の教育課程のよさを広く伝えていく。また、上越教育大学の学部生・院生等に対しての講義にも当校の職員が講師として授業に参画し、子どもが育つ教育課程の実際を示していく。</p> |